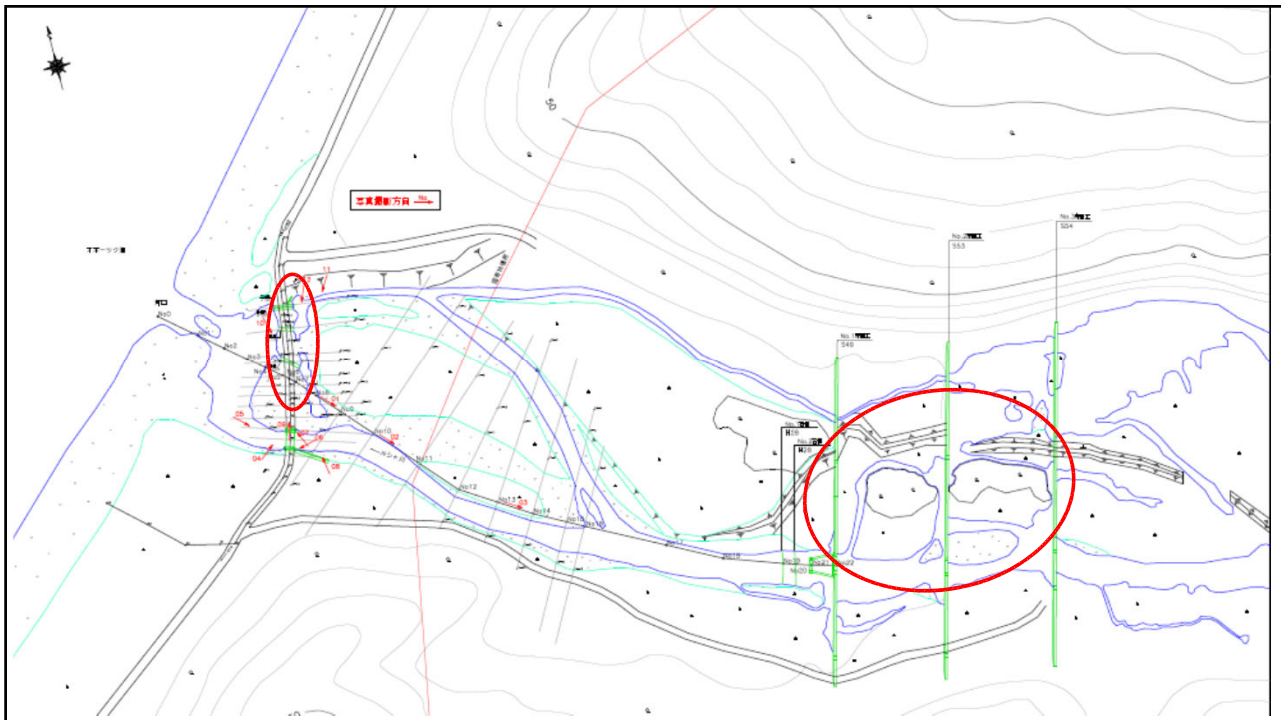


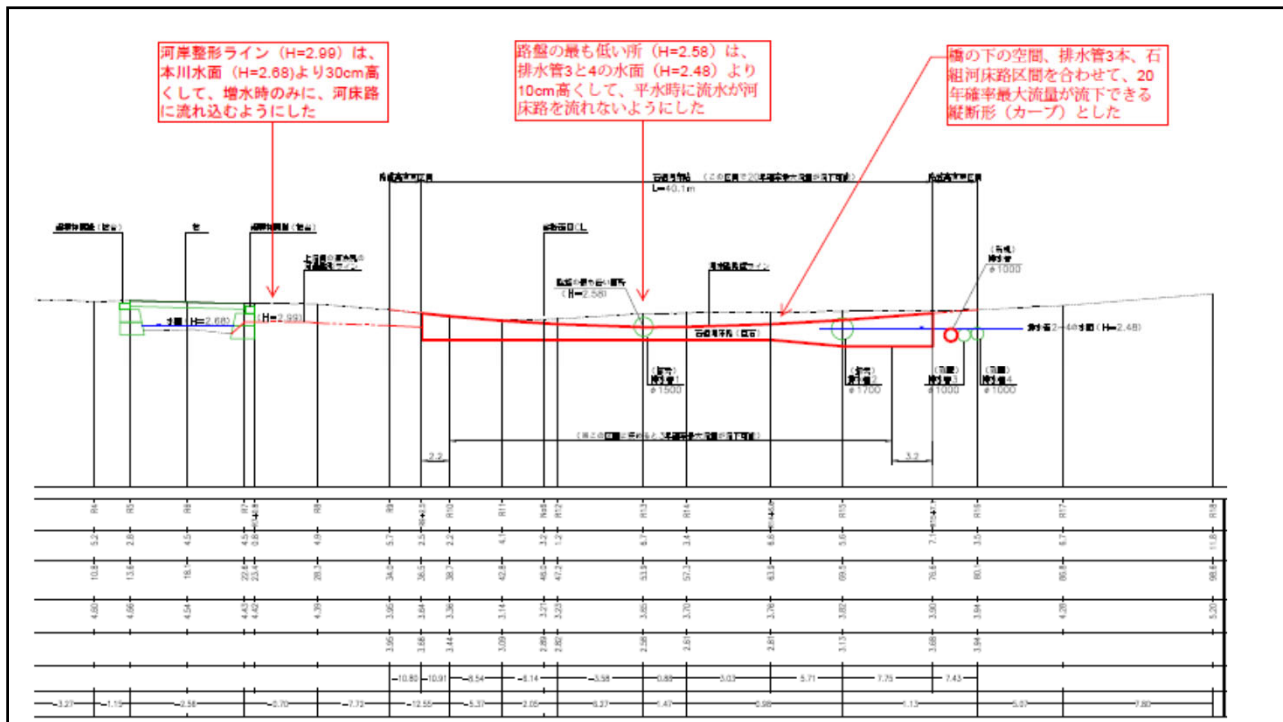
ルシャ川の環境改善のポイント

- 河口近くに設置された道路橋によって河川の流れが集中し、河床低下が続いている状態を中小洪水時には流れが拡散するように、洪水流を分散させ、道路の一部を河床路とする。
- 治山堰堤の3か所の水通し箇所を40m切り欠き、河道の自由度を持たせる。

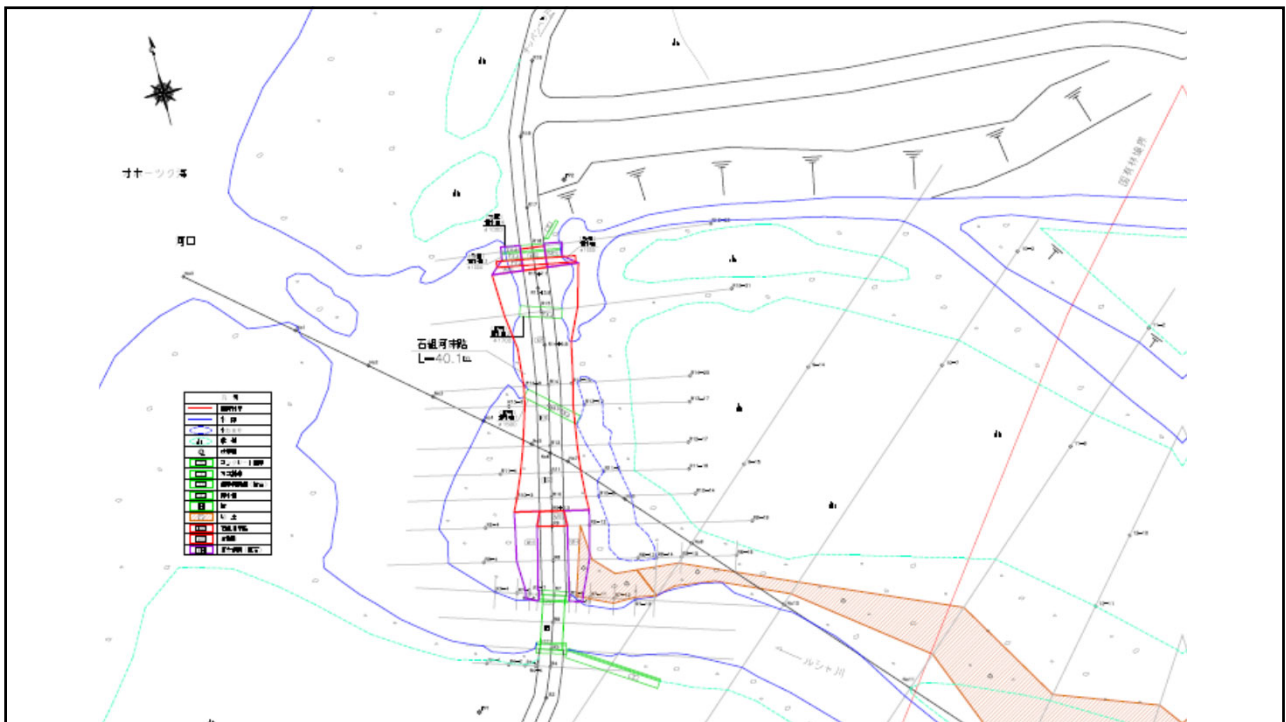




















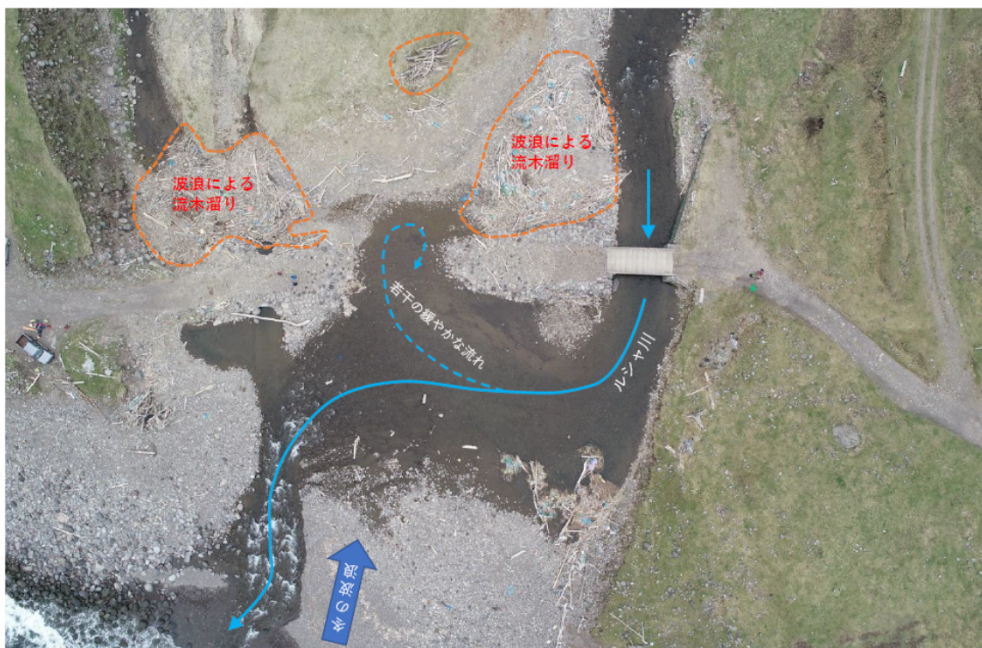








R1年5月10日撮影 ルシャ川河床路垂直写真



R1年5月10日撮影 ルシャ川河床路斜め写真

- 冬季の波浪により運ばれた流木が河床路上流に滞留
- 波浪による河床路の巨石組みに変形・崩れは起きていない
- 河床路延長33mの内、12.7mが滞水区間となっている
- 滞水区間最深部の水深は22cm



R1年5月10日撮影

右岸から左岸（橋側）を望む



左岸から右岸（番屋側）を望む



石の凹凸が大きい部分（間詰め土砂が若干流出したと考えられる）
石の凹凸落差は20cm程度（最大25cm）



滞水区間の状況
石の凹凸落差は10cm程度

